

稲作情報 第7号

令和8年7月19日

黒 部 市
黒部市農業技術会議

5月中旬植え「コシヒカリ」の幼穂形成期（幼穂2mm）は、7月6日頃であり、今後、平年並の気象で経過した場合の出穂期は、7月27日頃と見込まれます。産米の品質向上に向けて、病虫害防除を適期に実施するとともに、適切な水管理や追肥により稲体の活力を維持しましょう。

1 穂肥

○コシヒカリ

8月の気温は高くなると予報されています。稲体の活力を維持するため、出穂前の葉色が基準よりも淡い場合は、追加の穂肥を施用しましょう。

【追加穂肥の目安】

幼穂形成期の7～10日後（7/13～16）に
葉色が4.2未満（壤土は4.0未満）

早急に追肥を!!

7/13～7/24頃
（出穂期の3日前まで）に
追肥3号 7～10 kg/10a

○富富富

まき遅れ、まき過ぎによる食味低下に注意！

適正な基肥量が施用されている場合、原則穂肥は施用しません。
ただし、幼穂形成期の14日後の葉色が4.2より淡い場合は出穂期の3日前までに「追肥3号」を7～10kg/10a程度施用しましょう。

2 出穂後の水管理

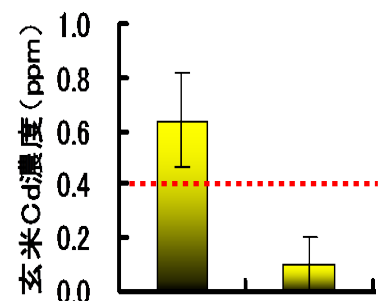
稲の活力維持と品質向上、カドミウム吸収抑制のため、**出穂期から20日間は田面が出ないよう、「湛水管理」**を徹底しましょう（乾田直播は収穫直前まで湛水管理を続ける）。

○湛水方法

- ・水深3cm程度に湛水し、田面が露出する前に再度入水する。
- ・水持ちが良くても1週間に1回は、新しい水を入水する。
- ・出穂後20日から収穫1週間前まで「**間断かん水**」を続ける（フェーン予報時は湛水する）。

用水は限りある資源です。有効利用にご協力ください。

- 水尻はしっかり止める。
- かけ流しはしない。
- 畦畔から漏水がないか点検する。



間断灌漑 20日湛水

図 水稻の出穂後の水管理と
玄米中のカドミウム濃度

産米流通対策地域の県有施設は場
試験結果（農研コシヒカリ）

今年も厳しい猛暑が予想されます。農作業中の熱中症対策を心がけましょう！！

3 病虫害防除

出穂状況を確認し、適期に防除を行いましょ。また、畦畔や雑草地の除草管理は、本田防除の前に終え、草刈り後はできるだけイネ科雑草の穂が出ないように管理しましょ。また、水稻の出穂後の草刈りは控え、斑点米カメムシ類を田んぼに追い込まないようにしましょ。

○コシヒカリ（5月中旬植え）

剤型	時期	使用農薬	散布量/10a (希釈水量/10a)	ドローンの 場合	使用基準 (収穫前日数)
粉剤	穂揃期 (7/30頃)	ビームモンカットスタークルF粉剤 5 DL	4 kg		14 日前まで
	傾穂期 (8/6頃)	キラップ粉剤 DL	4 kg		14 日前まで
	多発時	トレボン粉剤 DL	4 kg		7 日前まで
液剤	穂揃期 (7/30頃)	ビームエイトスタークルゾル	薬量 150 mL (希釈水量 150L)	100 mL (〃 600 mL)	7 日前まで
		モンカットフロアブル			14 日前まで
	傾穂期 (8/6頃)	キラップフロアブル	薬量 150 mL (希釈水量 150L)	100 mL (〃 700 mL)	14 日前まで
	多発時	スタークル液剤 10	薬量 150 mL (希釈水量 150L)	100 mL (〃 700 mL)	7 日前まで

- ・散布時期の間隔は7日間を目安とします（10日以上あけないように）。
- ・農薬ラベルの記載事項を確認し、正しく使用しましょ。
- ・風向きや風速、散布量等に注意し、周辺の作物や住宅地等への飛散防止に努めましょ。

○富富富（5月上中旬植え）

剤型	時期	使用農薬	散布量/10a (希釈水量/10a)	ドローンの 場合	使用基準 (収穫前日数)
粉剤	穂揃期 (7/30頃)	ビームモンカットスタークルF粉剤 5 DL	4 kg		14 日前まで
	傾穂期 (8/6頃)	キラップ粉剤 DL	4 kg		14 日前まで
	多発時	トレボン粉剤 DL	4 kg		7 日前まで
液剤	穂揃期 (7/30頃)	ビームエイトスタークルゾル	薬量 150 mL (希釈水量 150L)	100 mL (〃 600 mL)	7 日前まで
		モンカットフロアブル			14 日前まで
	傾穂期 (8/6頃)	キラップフロアブル	薬量 150 mL (希釈水量 150L)	100 mL (〃 700 mL)	14 日前まで
	多発時	スタークル液剤 10	薬量 150 mL (希釈水量 150L)	100 mL (〃 700 mL)	7 日前まで

- ・散布時期の間隔は7日間を目安とします（10日以上あけないように）。
- ・農薬ラベルの記載事項を確認し、正しく使用しましょ。
- ・風向きや風速、散布量等に注意し、周辺の作物や住宅地等への飛散防止に努めましょ。